

| | | | |
|---|---|-----|---------|
| 氏 名 | 所 属 | 職 名 | 学 位 |
| 笹竹英穂 | 健康科学部体育科学科 | 教授 | 博士（心理学） |
| 資 格 | | | |
| 臨床心理士 | | | |
| 主 な 著 書 ・ 原 著 論 文 | | | |
| 年 度 | タイトル（出版元又は掲載誌） | | |
| 平成 14 | コミュニケーションを重視した描画の活用.心理臨床学研究, 20(4), 336-347 中学生の受けた犯罪・不良行為の被害の実態－被害場所, 性差による分析－. 犯罪心理学研究, 40(1), 35-44 | | |
| 平成 16 | いじめ被害を親や友人に申告しない理由についての分析. 中京女子大学教育紀要, 39, 49-60 | | |
| 平成 18 | 平成 17 年度学生生活の満足度調査の結果と今後の課題. 中京女子大学教育紀要, 10, 79-87 | | |
| 平成 20 | 女子大生の犯罪情報への関心および防犯意識の形成について－リスク認知および犯罪不安の観点から－. 犯罪心理学研究, 46(1), 15-29 | | |
| 平成 21 | 女子大生が受けた犯罪・不良行為の被害の実態と事件を家族や友人に報告しない理由 学生相談研究, 30(2), 124-135 | | |
| 平成 22 | 女子大生の防犯意識の形成について－抑うつの影響の観点から－. 犯罪心理学研究, 47(2), 15-31 | | |
| 平成 22 | 女子大生の防犯意識と人口動態要因(年齢・居住形態・犯罪被害体験の関係). 中京女子大学教育研究紀要 13, 91-102 | | |
| 平成 26 | 性に関する危険な出来事の被害体験が防犯意識に与える影響－楽観主義バイアスの視点から－. 犯罪心理学研究, 51(2), 33-44 | | |
| 平成 26 | 大学生の心理的デート DV の経験の実態および被害の認識の性差, 学生相談学研究 35(1), 56-69 | | |
| 平成 27 | 女子高校生を対象とした心理的デート DV の防止講座の効果検証：シングルセッションの場合 心理臨床学研究 33(5), 441-450 | | |
| 令和元 | デート DV における両方向暴力の実態とその生起の理由についての学生の認識 至学館大学教育研究紀要, 21, 75-83 | | |
| 所 属 学 会 | | | |
| 学生相談学会, 心理臨床学会, カウンセリング学会, 家族心理学会, 犯罪心理学会 | | | |
| 主 な 社 会 的 活 動 | | | |
| 年 度 | 活 動 内 容 | | |
| 平成 11 | 大府市青少年問題協議会委員「現在に至る」 | | |
| 平成 19 | 名古屋テレビ情報番組「ドデスカ！」コメンテーター「平成 20 年まで」 | | |
| 平成 28 | 岡崎市立矢作中学校学校保健委員会講師 | | |
| 平成 29 | 岡崎市立葵中学校学校現職教育講師 | | |